

九州・沖縄ニュースレターは会員生協の特徴的な活動を紹介するニュースです。会員生協の皆様からの情報提供を宜しくお願いします。

★2007年 コープおきなわ「6・23平和行進」 ファミリーピースウォークが取組まれました

6月23日※①沖縄慰霊の日にコープおきなわ「ファミリーピースウォーク」が行われ、195名（子ども65名、大人130名：昨年172名）が平和を願い歩きました。



開会式の沖縄戦の大型紙芝居「弟をかえして」の朗読は大変好評でした。所々で中学2年の男の子がかなでる三線がとても効果的でした。



行進は、4人に1人が亡くなった沖縄戦の末期に鉄の暴風雨の中追いつめられた最後の地、喜屋武半島の山城・米須地域。平和創造の森公園を出発した一行は、梅雨明けの強烈な日差しが射す中、「ひめゆりの塔」などの多くのガマ（壕）が残る地



を※②「^{こんぱく}魂魄の塔」を目指して進みました。魂魄では秋田県南生協から寄せられた千羽鶴の献納と平和の祈りを行いました。ベビーカーを押すお父さん、会話を楽しむ親子、黙々と歩む年輩の方、それぞれ思い思いの形で歩きました。黄色いハンカチがはためくゴールでは、冷たい麦茶とそよ風が迎えてくれました。閉会では、「月桃」の唄を囃みしめるように全員で歌い、平和の想いを新にしました。



参加者からは「ひとこと短冊」で感想が寄せられました。「せんそうのおはなしが、べんきょうになった」「せんそうはしないで」「へいわのほうがいいな」「せんそうはいやだ」「おとうさんとおかあさんとずっとはなれないように」「いつまでも戦争のない世の中でありたいように。でも暑かった・・・」と子ども達からの平和の願い。大人からは、「昨年に続き完歩しました。若い方が多いのがうれしいです。平和の尊さを引き継いでください。」「今年も参加でき たくさんの親子で平

和の祈りを行いました。ベビーカーを押すお父さん、会話を楽しむ親子、黙々と歩む年輩の方、それぞれ思い思いの形で歩きました。黄色いハンカチがはためくゴールでは、冷たい麦茶とそよ風が迎えてくれました。閉会では、「月桃」の唄を囃みしめるように全員で歌い、平和の想いを新にしました。



和の行動ができ嬉しく思いました。」「かみしばいとともよかったなみだがあふれそう」「今もなお起こり続けている世界中の戦争。地上戦を体験した沖縄だからこそうったえる事が出来るものがあるはず・・・他人の痛さを自分の痛さとして前進(しよう)」「いつまでも語り継がれ二度と同じ事を起こさぬと全ての人が思いますように」と平和と命のリレーについての感想が多く寄せられました。

※①「沖縄慰霊の日」とは：6月23日は、62年前に本土決戦の時間稼ぎのために「捨て石」とされた沖縄戦で、日本軍の組織的な戦闘が終わった日とされ、沖縄戦で失われた20数万人の人々を慰霊する日です。

※②「魂魄こんぱくの塔」とは：南部の米須こめす地域では、沖縄戦で追いつめられた住民、軍人が多数命を失いました。戦後、放置された多数の遺骨を地域の住民が収集して納めた納骨所（堂）が魂魄の塔です。慰霊の日には、この付近で亡くなったり、行方がわからなくなった人たちの遺族が訪れ、一日中線香の煙が絶えることはありません。